解禁日時：令和8年10月16日（金）17時

本件問合せ先
（一社）全国医学部長病院長会議事務局
TEL：03-3813-4610
FAX：03-3813-4660
Mail：info@ajmc.jp

大学病院の経営状況と課題

令和8年10月16日

一般社団法人全国医学部長病院長会議
会 長　石 井　優
一般社団法人国立大学病院長会議
会 長　大 鳥 精 司
一般社団法人日本私立医科大学協会
会 長　炭 山 嘉 伸

一般社団法人
全国医学部長病院長会議

一般社団法人
国立大学病院長会議
National University Hospital Council of Japan

一般社団法人
日本私立医科大学協会

○ 構成

1. 令和7（2025）年度 大学病院の経営状況について（決算）

2. 令和8（2026）年度 大学病院の経営状況について（見込）

3. 医学部医学科における教育負担の現状（調査結果報告）

4. 大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査（調査結果報告）

5. 病院施設・設備の老朽化の状況

6. 国・地方公共団体に対して期待すること【要望】

１．令和７（２０２５）年度 大学病院の経営状況について（決算）　①

(1) 令和7(2025)年度 大学病院の経営状況について

・令和7年度の国立大学病院、公立大学病院、私立大学病院の経営状況について、調査結果をもとに報告する。
・令和7年度の経常利益(決算ベース)は、前年度比で15億円改善しており、厚生労働省の令和7年度補正予算医療・介護等支援パッケージ等による支援が大きな要因となっている。
・大学病院が担う教育研究診療機能を維持していくためには、経営力の強化や処遇改善に向けた恒常的な支援が必要である。

○令和7(2025)年度 経常利益

国立大学病院（44病院） 経常利益 ▲244億円
公立大学病院（　8病院） 経常利益 ▲　57億円
私立大学病院（31病院） 経常利益 ▲ 192億円

国公私立大学病院の経常利益
▲ 493億円

経常利益　15億円改善

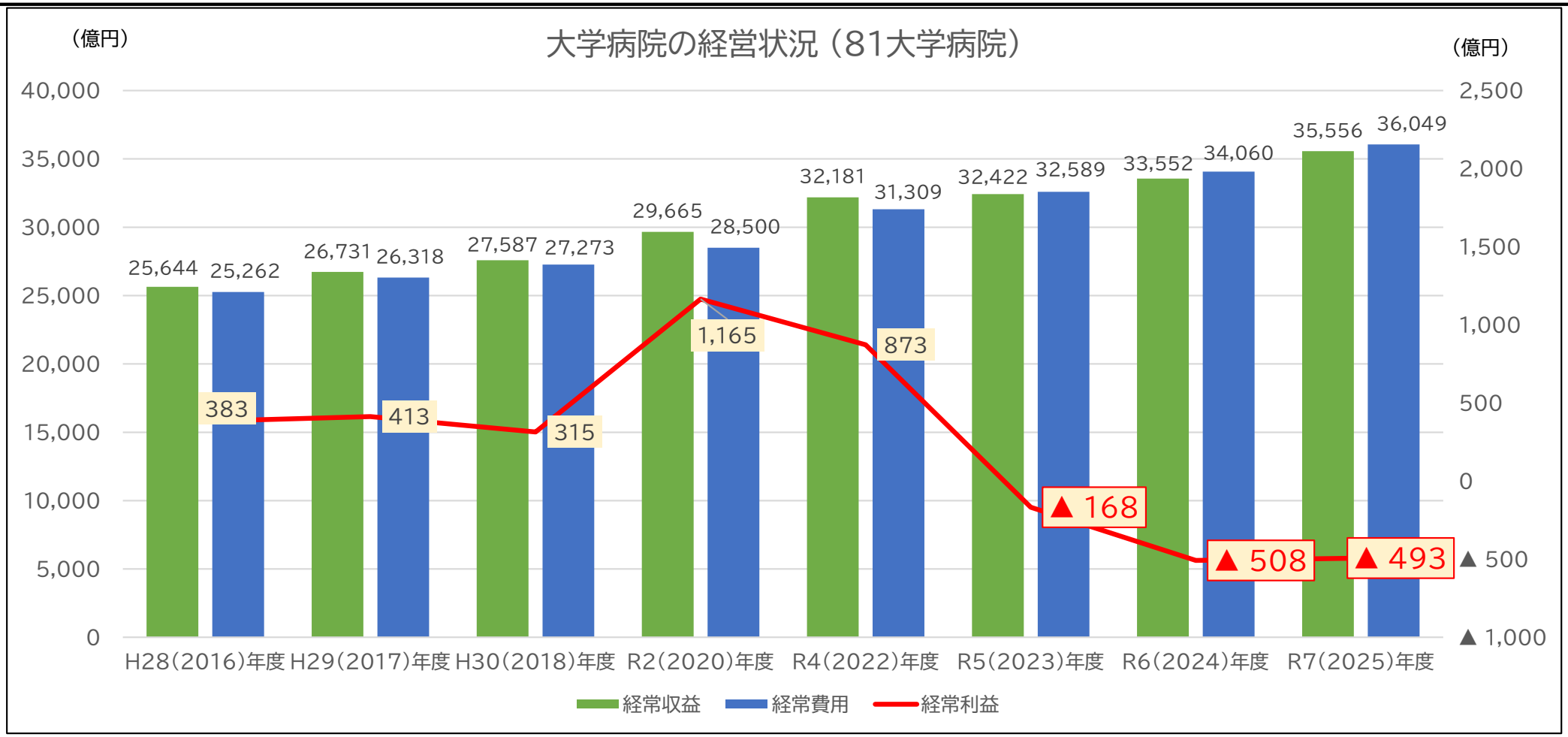
※ 令和6(2024)年度 経常利益
国立大学病院（44病院） 経常利益 ▲286億円
公立大学病院（　8病院） 経常利益 ▲　91億円
私立大学病院（31病院） 経常利益 ▲ 131億円

国公私立大学病院の経常利益
▲ 508億円

1．令和７（２０２５）年度 大学病院の経営状況について（決算） ②

（2）国公私立大学 81大学病院

・大学病院全体（国公私立）の経常収支の推移を見ると、令和4（2022）年度までは費用が収益を上回ることはなかったが、令和5（2023）年度から費用が上回り経常利益が▲168億円となった。令和6（2024）年度では収益が前年度比で1,130億円増加しているものの費用が対前年度比で1,471億円と収益を大きく上回った結果、経常利益は▲508億円と大きく悪化した。
・令和7（2025）年度は、厚生労働省の医療・介護等支援パッケージ等の支援により、改善が見られ経常利益は▲493億円であった。

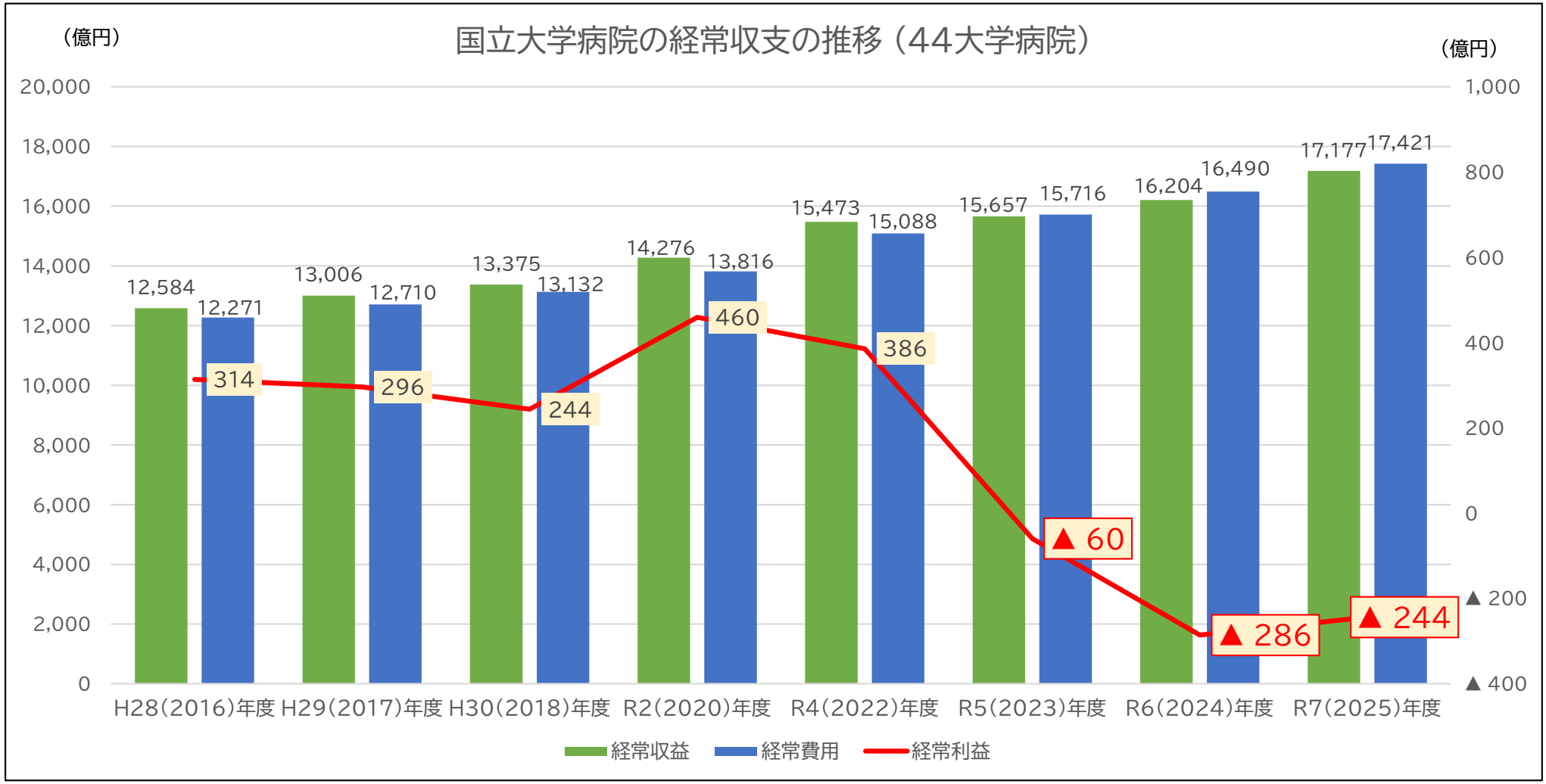


出典：文部科学省医学教育課の公私立概況調査を全国医学部長病院長会議で加工
国立大学病院長会議のデータを全国医学部長病院長会議で加工

1．令和７（２０２５）年度 大学病院の経営状況について（決算） ③

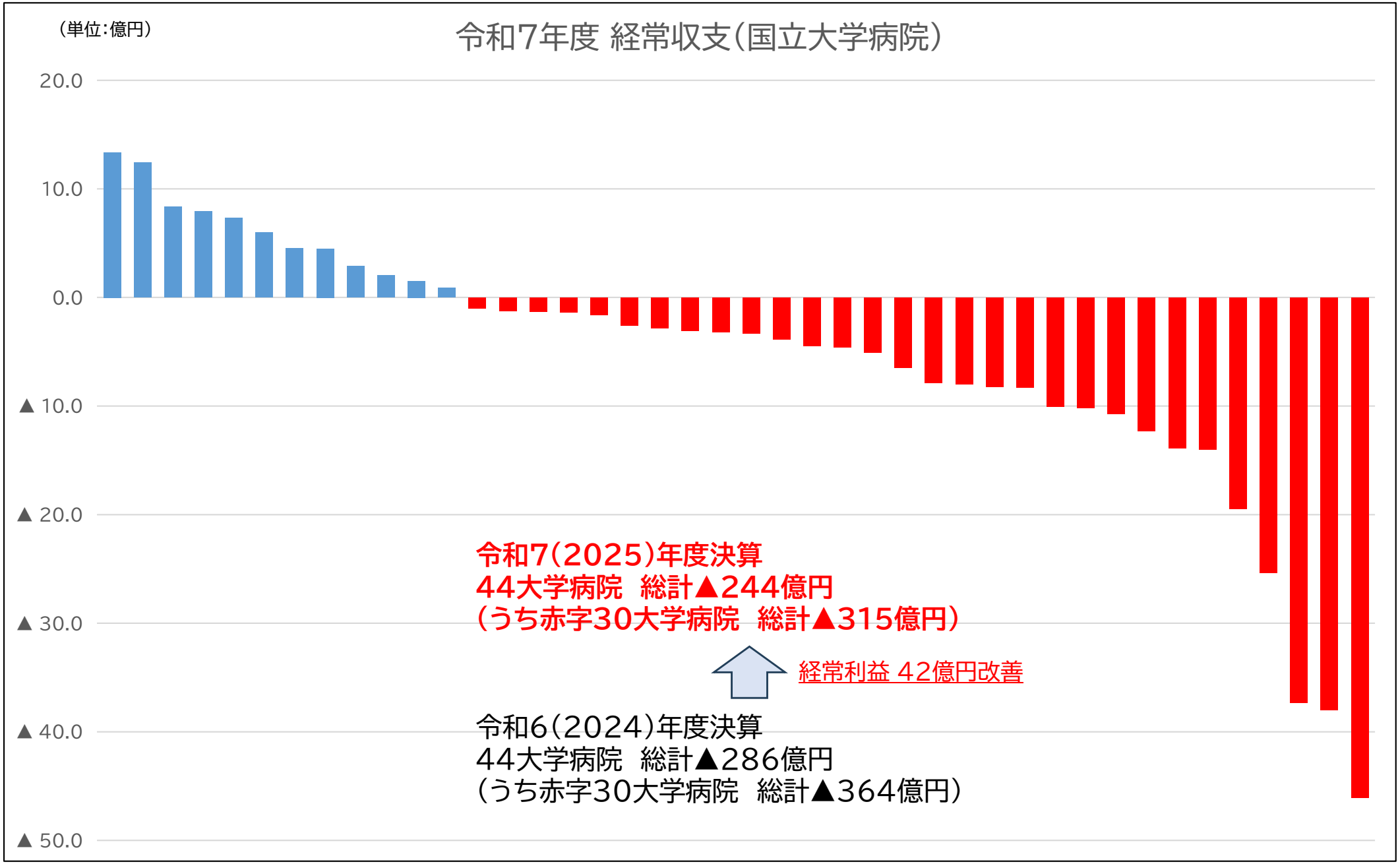
（3）国立大学病院の経常収支の推移

・国立大学病院の経営状況の推移では、令和5（2023）年度から急激に経営が悪化して経常利益が▲60億円となった。令和6（2024）年度では収益が前年度比で547億円増加しているが、費用が対前年度比で774億円と収益を大きく上回った結果、経常利益は▲286億円と大きく悪化した。
・令和7（2025）年度は、令和7年度の補正予算が措置されたことから、前年度と比べて改善が見られ経常収支は▲244億円であった。



出典：国立大学病院長会議のデータを全国医学部長病院長会議で加工

令和７（２０２５）年度　国立大学病院における経常収支の比較

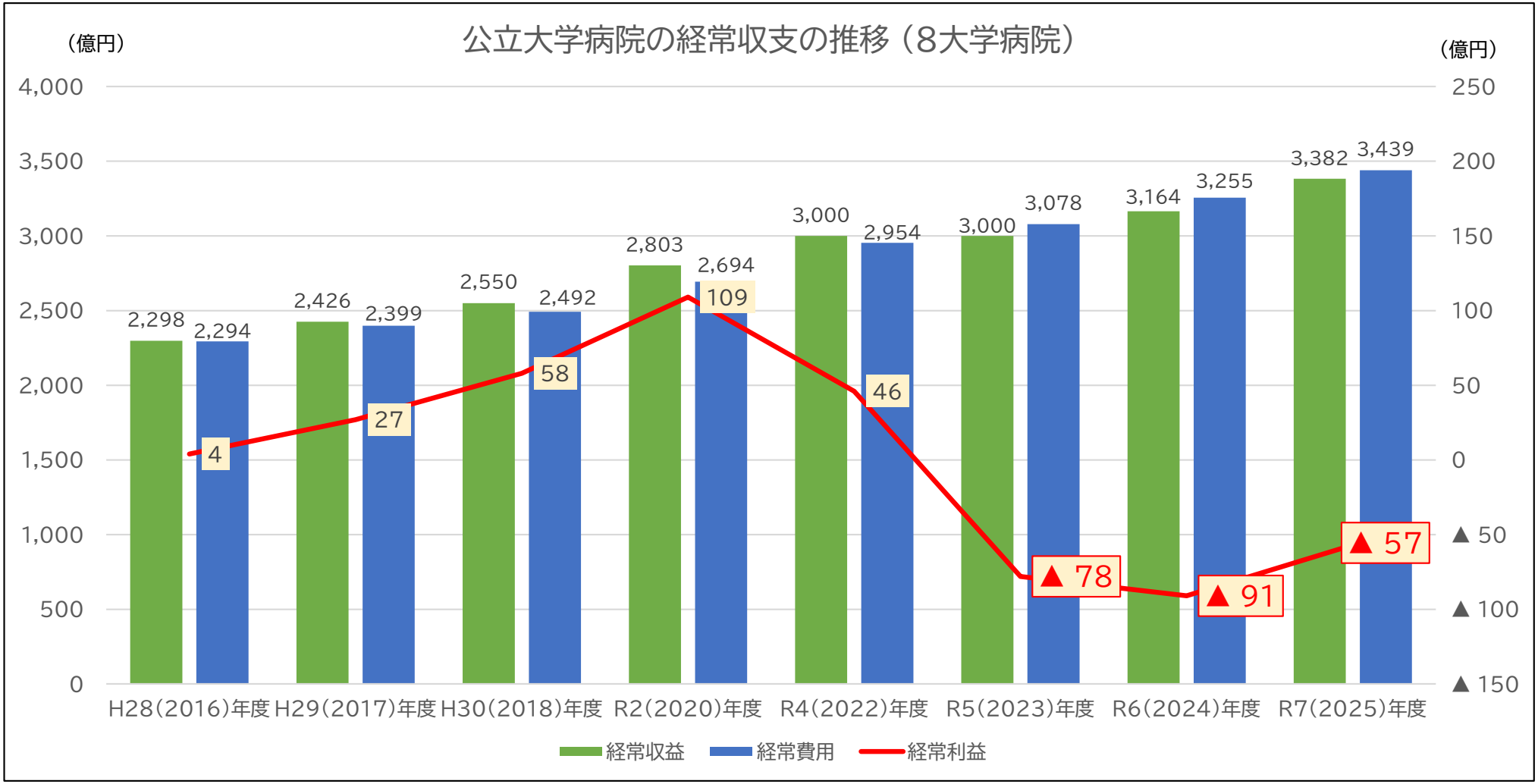


出典：国立大学病院長会議のデータを全国医学部長病院長会議で加工

1．令和７（２０２５）年度 大学病院の経営状況について（決算） ④

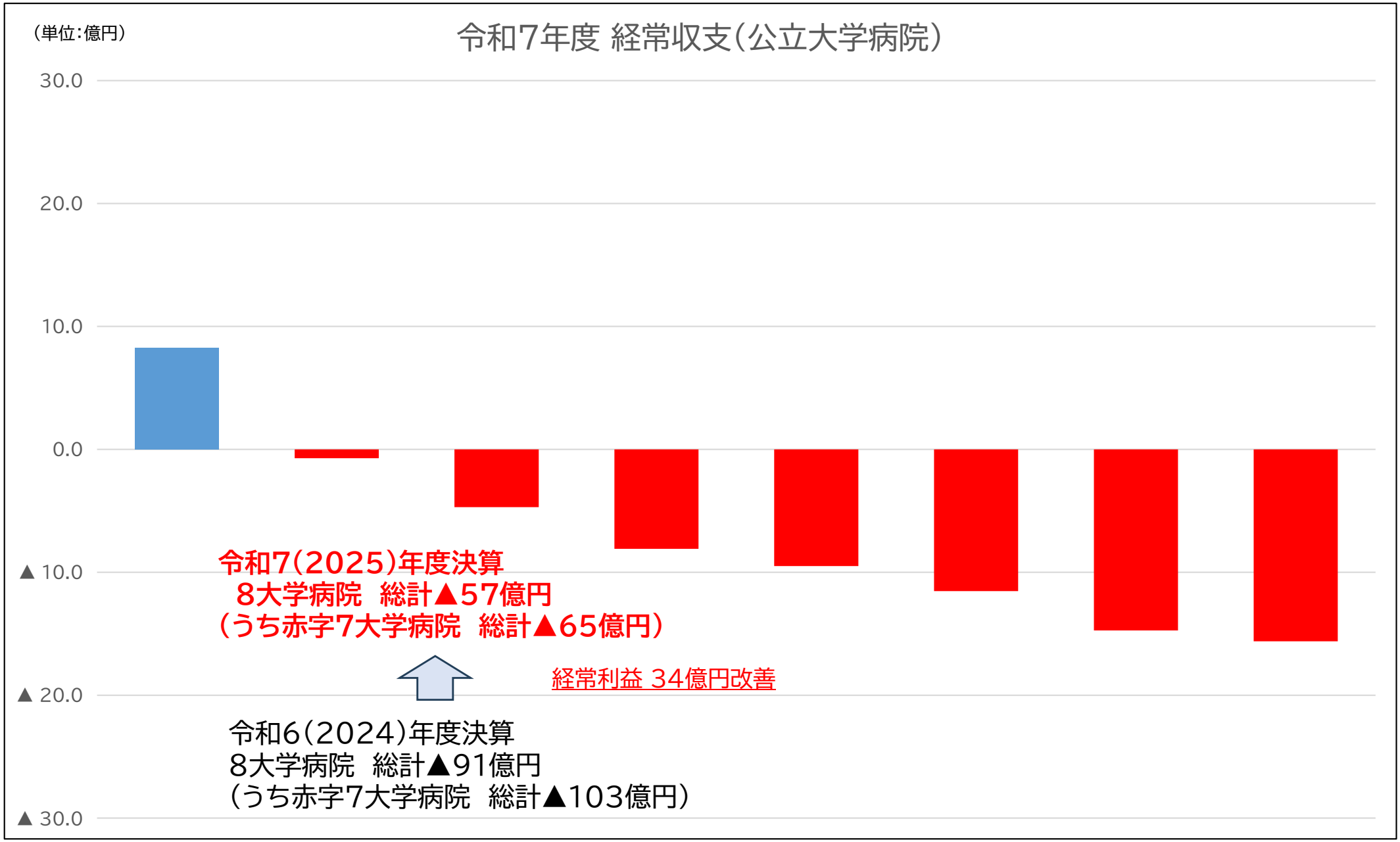
（4）公立大学病院の経常収支の推移

・公立大学病院の経営状況の推移では、令和5（2023）年度から急激に経営が悪化して経常利益が▲78億円となった。令和6（2024）年度は収益が前年度比で164億円増加しており、費用は対前年度比で177億円の増加にとどまったため経常利益は▲91億円となったが、1大学当たりに換算すると▲11億円とかなり厳しい経営状況になっていた。
・令和7（2025）年度は、令和7年度の補正予算が措置されたことから、前年度と比べて改善が見られ経常収支は▲57億円であった。



出典：文部科学省医学教育課の公私立概況調査を全国医学部長病院長会議で加工

令和７（２０２５）年度　公立大学病院における経常収支の比較

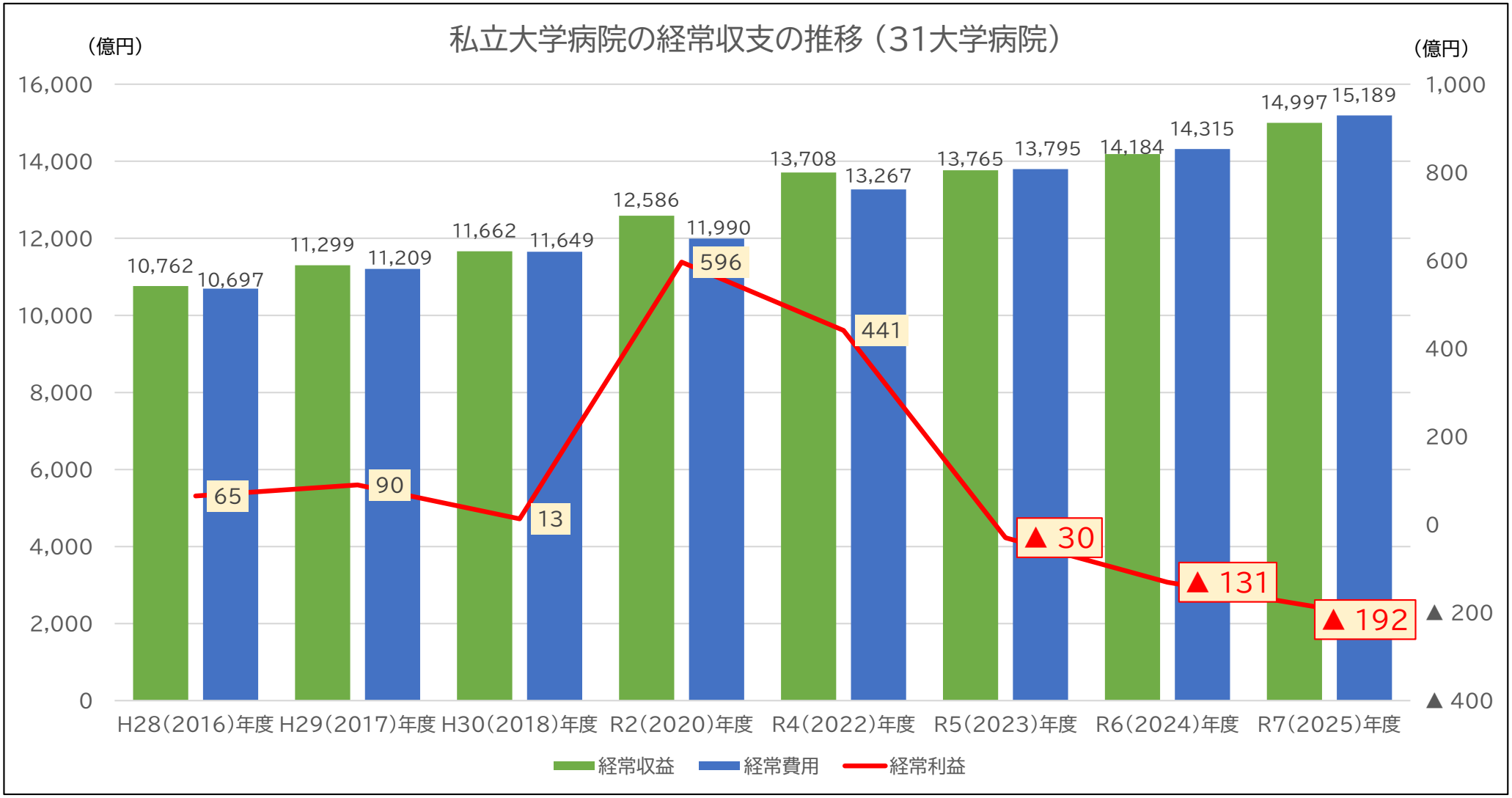


出典：文部科学省医学教育課の公私立概況調査を全国医学部長病院長会議で加工

1．令和７（２０２５）年度 大学病院の経営状況について（決算） ⑤

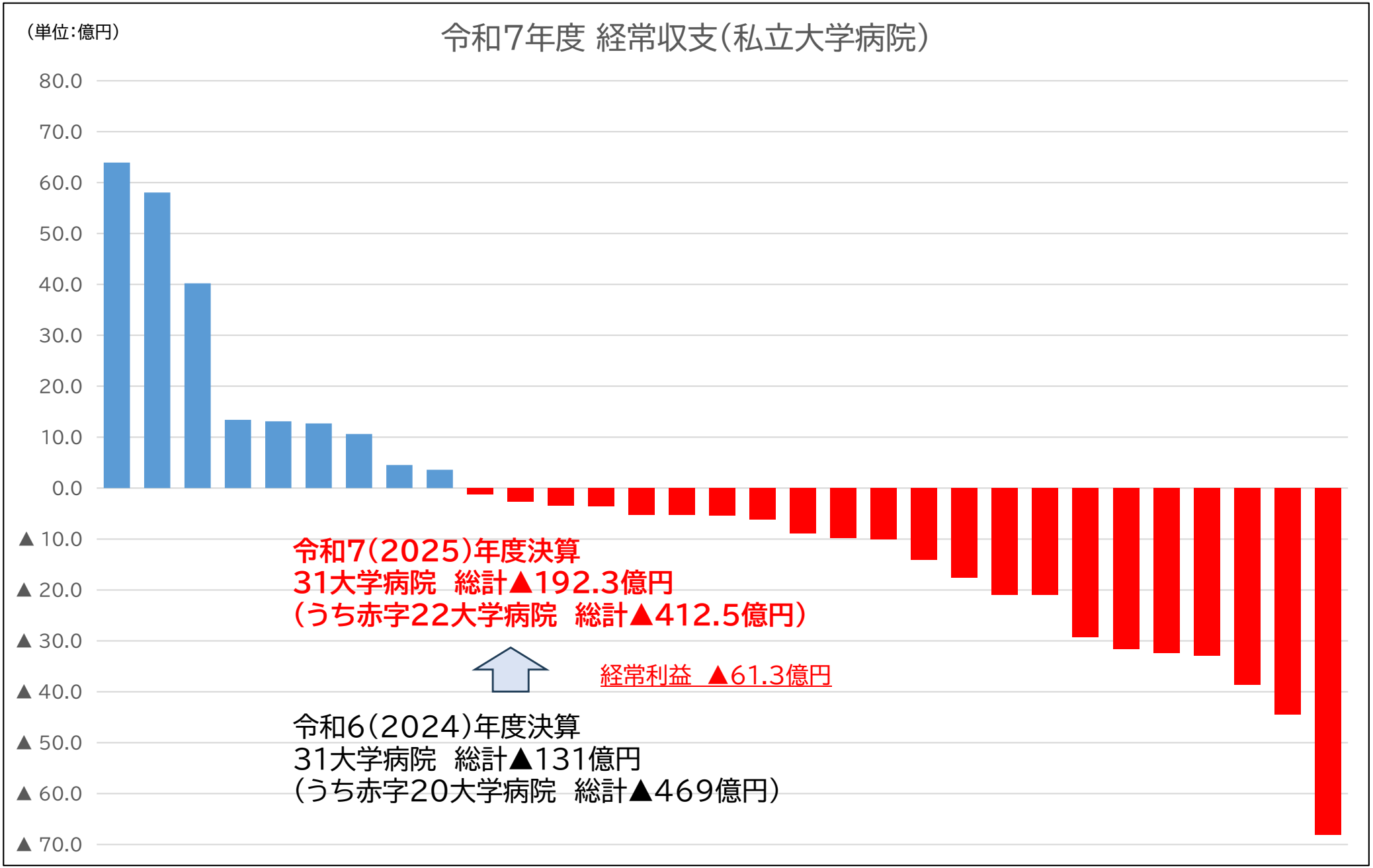
（5）私立大学病院の経常収支の推移

・私立大学病院の経営状況の推移では、令和5（2023）年度は大きく悪化して経常利益が▲30億円であった。
令和6（2024）年度は収益が前年度比で419億円増加したが、費用が対前年度比で520億円と収益を大きく上回って増加したため、経常利益は▲131億円と大きく悪化した。
・令和7（2025）年度は、令和7年度の補正予算が措置されてはいるが経常収支は▲192億円であった。



出典：文部科学省医学教育課の公私立概況調査を全国医学部長病院長会議で加工

令和７（２０２５）年度　私立大学病院における経常収支の比較



出典：文部科学省医学教育課の公私立概況調査を全国医学部長病院長会議で加工

２．令和８（２０２６）年度 大学病院の経営状況について（見込）

(1)令和8(2026)年度 大学病院の経営状況について

・令和8(2026)年度の6月・7月の診療実績をもとに検証した結果、医業収益は前年に比べて8%増加する見込みであり、このうち診療報酬改定による影響を分析したところ4.5%程度であった。
・医業費用も上昇しており、限定的な試算ではあるが、人件費が賃上げ対応等の影響により6%増加、物件費も物価高騰に加え高額医薬品や診療材料の使用量が増加したことにより7%増加する見込みであり、費用の上昇分を考慮すると、利益がどの程度残るのか予断を許さない状況。
・仮に利益が出たとしても、運営に必要となる老朽化したライフラインの更新や再開発整備等の施設整備に新たに投資をできるほどの余力がない状況。
・このままでは、診療への過度な傾倒による教育研究エフォートの低下や施設・設備整備への老朽化などの課題が残り続けることになる。
・経営が好転しないため、医療従事者の処遇改善も困難なままで、大学病院の最も重要な資源である人材確保が一層難しくなる。

※ いくつかの大学をサンプリングしたうえで、現金ベースで試算

収支科目	前年との比較	主な増▲減要因
医業収益	8%増	・診療報酬改定 ・患者数や稼働等の経営努力分
医業費用	6%増	
人件費	6%増	・ベースアップ・賃上げ対応等
物件費	7%増	・高額医薬品・診療材料の増 ・業務委託費・保守費・機器賃貸借費（賃上げ・物価高騰に伴う単価上昇） ・光熱水費（エネルギー価格変動等）

出典：国立大学病院長会議の試算を元に作成

3. 医学部医学科における教育負担の現状（調査結果報告） ①

医学部教員が担う教育負担（質的・量的実態）およびその影響を把握し、持続可能な教育体制の構築と軽減策を検討することを目的として実施

- 調査対象：会員大学（30大学抽出）に勤務する医師
- 調査回答数： 1,320名
- 調査期間：令和8年9月28日～令和8年10月2日

（1）所属大学の属性

	回答数	
国立	716	54.2%
公立	72	5.5%
私立	532	40.3%
総計	1,320	

（2）職位

	回答数	
教授	335	25.4%
准教授	239	18.1%
講師	232	17.6%
助教	445	33.7%
その他	69	5.2%
総計	1,320	

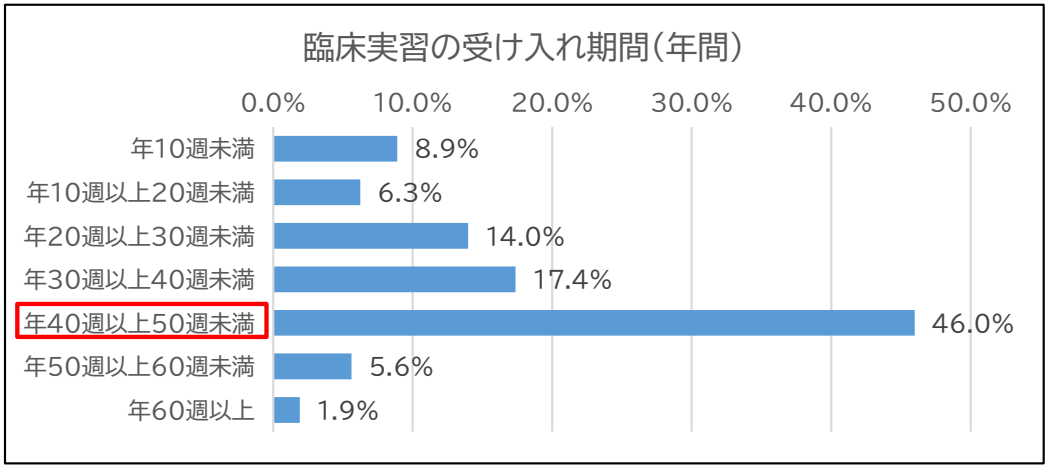
（3）所属分野

	回答数	
基礎医学系分野	182	13.8%
臨床医学系分野（診療を主に担当している）	1,064	80.6%
社会医学・公衆衛生学系分野	46	3.5%
その他	28	2.1%
総計	1,320	

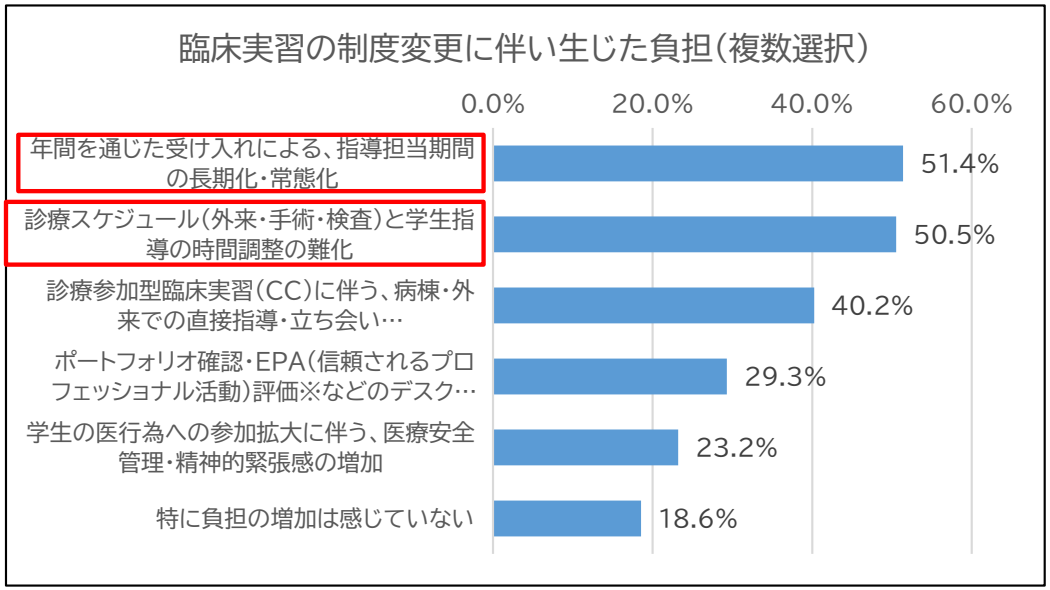
3. 医学部医学科における教育負担の現状（調査結果報告） ②

・臨床医学系分野では臨床実習の受け入れ期間が年40週以上50週未満との回答が46.0%と多かった。
・近年の臨床実習の時間変更・長期化などの制度変更に伴い、指導担当期間が長期化・常態化していることが負担との回答が51.4%と多かった。
・教育負担を軽減するためのに「特に有効」と考えられる対策では、指導教員の増員との回答が46.0%と多かった。

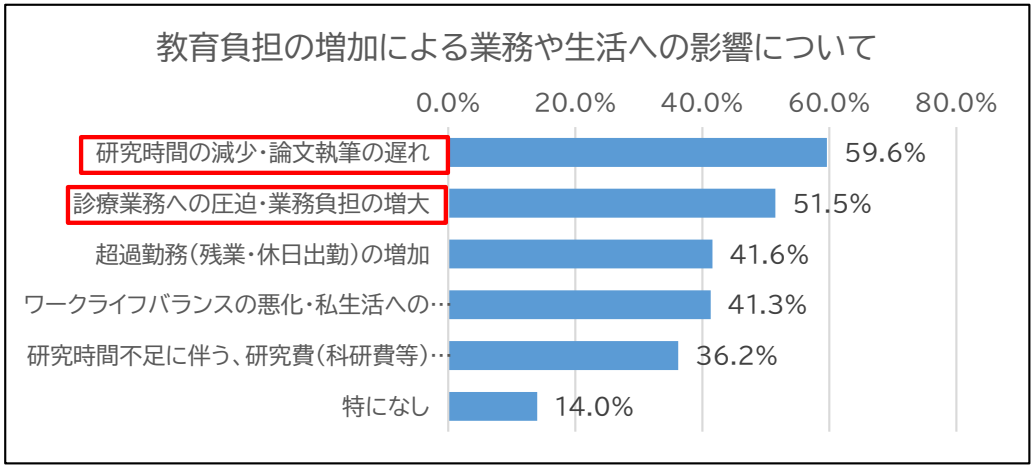
（1）臨床医学系分野における臨床実習の受け入れ期間



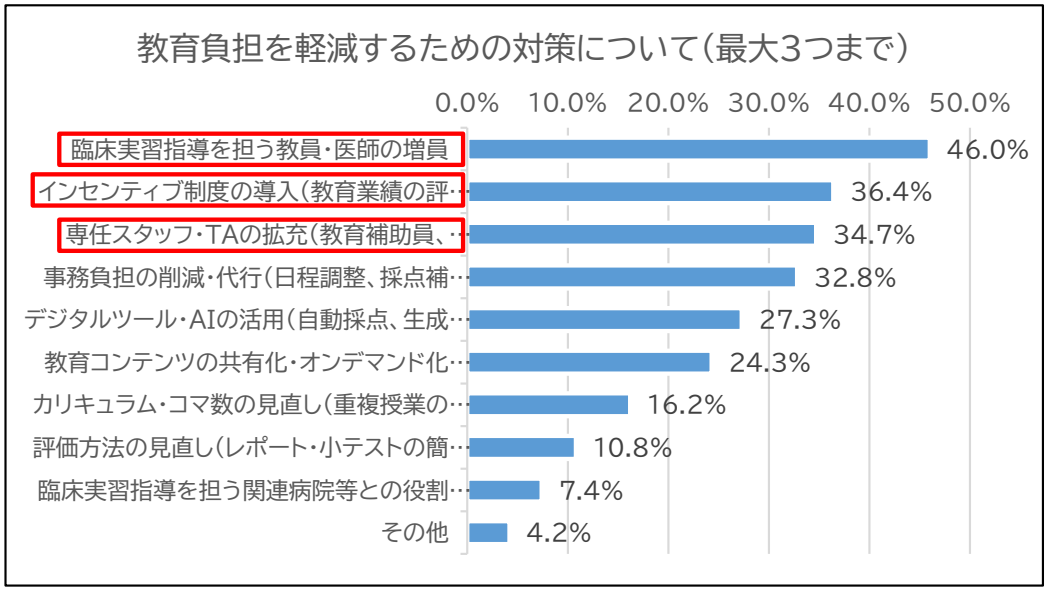
（2）臨床実習の制度変更に伴い生じた負担



（3）教育負担の増加による業務や生活への影響について



（4）教育負担を軽減するために「特に有効」と考えられる対策について



4. 大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査・研究報告書 ①

令和7年度 文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業
（地域医療に従事する医師の確保・養成のための調査研究）
「大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査・研究報告書」

○ 医師に対する個人調査

・調査の目的：大学・大学病院においては、医師の働き方改革、研究力向上、地域医療を進める上でも人材確保は急務であることから、医学教育、医学研究、地域医療等の諸課題を踏まえながら、大学・大学病院の魅力を向上していくため実態を調査

・調査対象：大学病院に勤務する医師
（助教、医員、専攻医、研修医）

・調査回答数：1,936名
（助教、医員、専攻医、研修医 他）

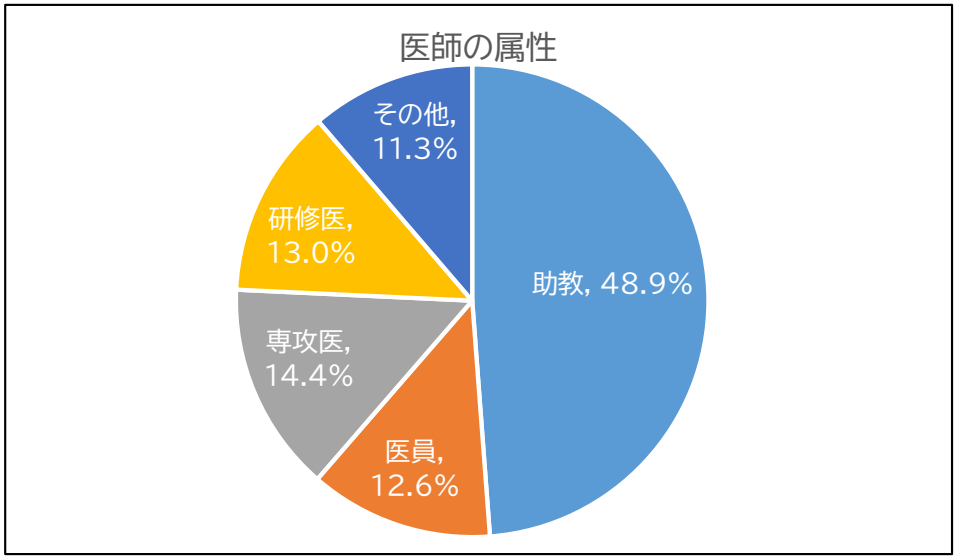
・調査期間：令和7年9月30日～令和7年10月31日

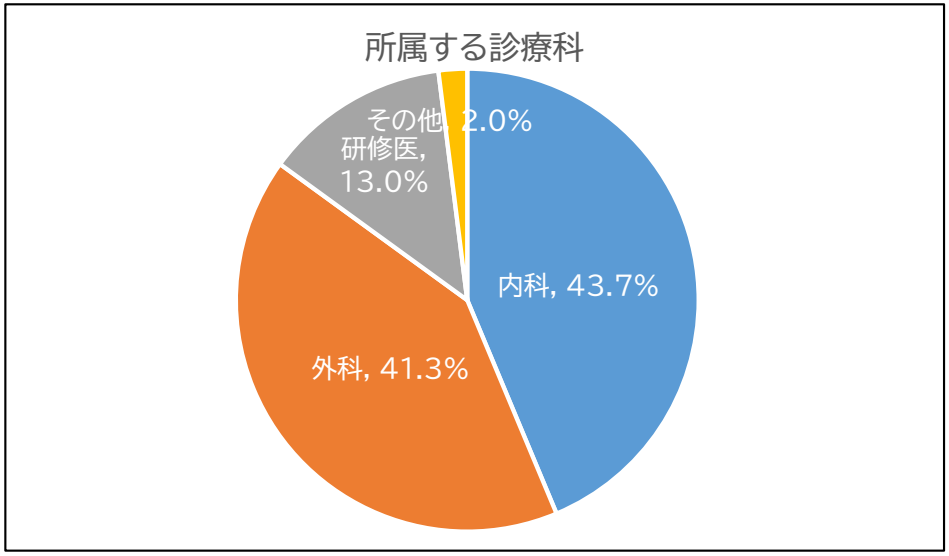
※ 本資料は「大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査・研究報告書」から一部抜粋

4. 大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査・研究報告書 ②

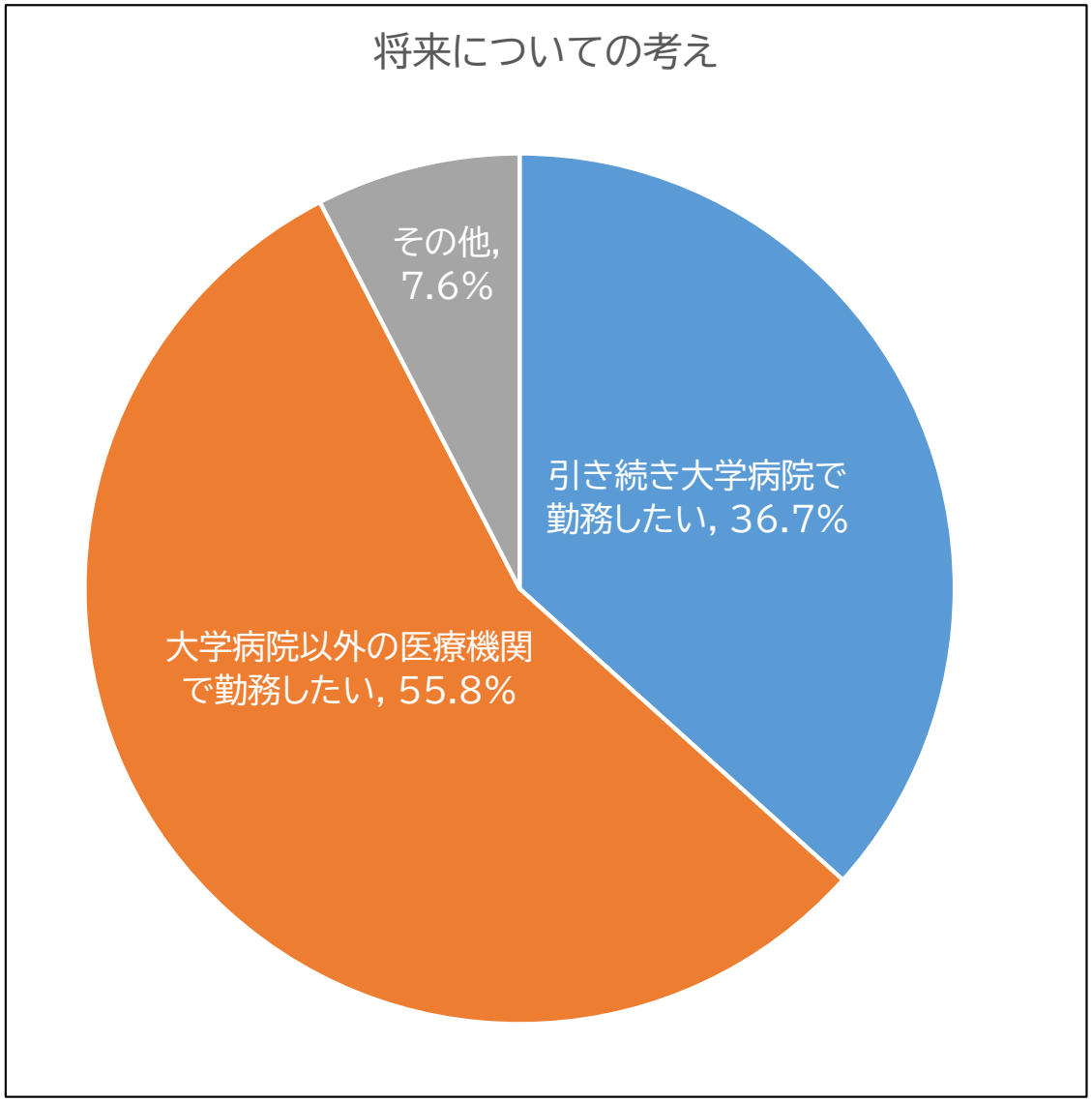
医師（助教、医員、専攻医、研修医）を対象に、将来の大学病院の勤務について聞いたところ、「引き続き大学病院で勤務したい」との回答が36.7%、「将来大学病院以外の医療機関で勤務したい」との回答が55.8%であった。

○ 回答医師の属性





○ 将来についての考え

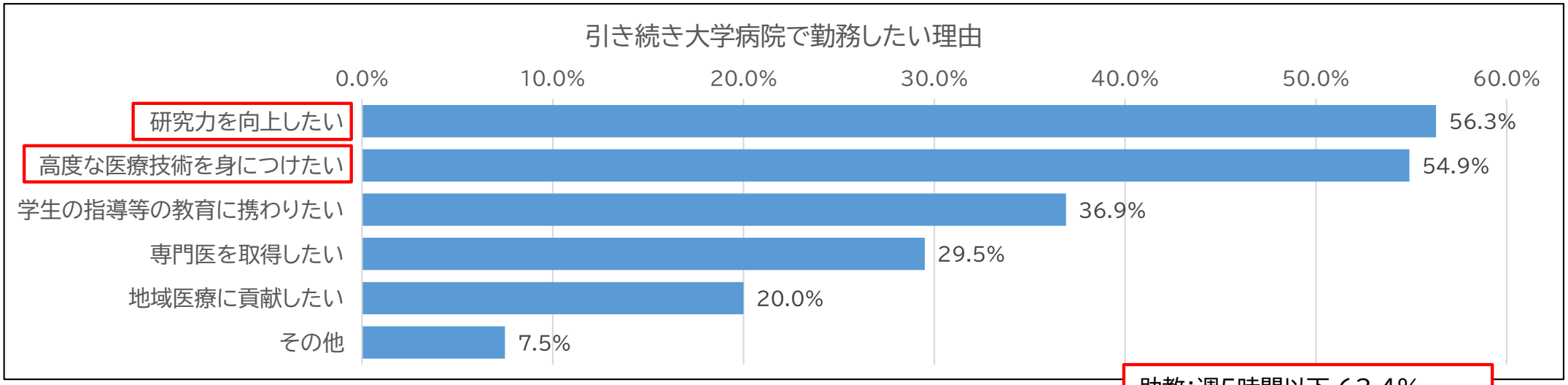


出典：令和7年度 文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業（地域医療に従事する医師の確保・養成のための調査研究）の報告書のデータを全国医学部長病院長会議AJMCで加工

4. 大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査・研究報告書 ③

引き続き大学病院で勤務したい理由では、「研究力を向上したい」との回答が56.3%、「高度な医療技術を身につけたい」との回答が54.9%であった。

○ 引き続き大学病院で勤務したい理由

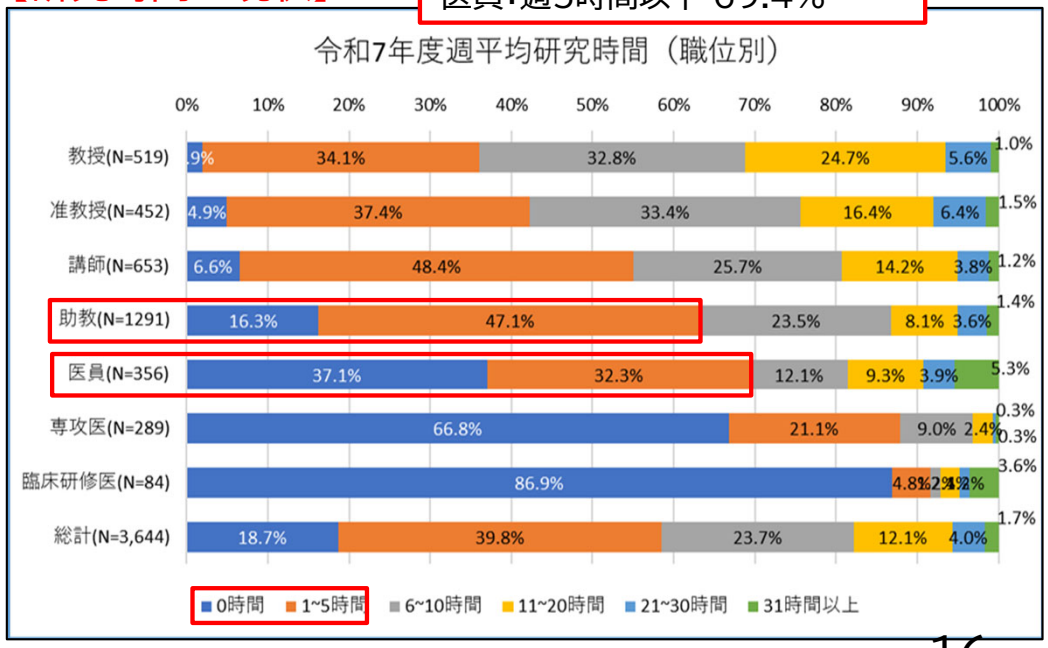


○ その他の回答

- 希少・遺伝性疾患、重症・高度医療、市中病院では行えない診療・手術
- 大学病院や中核病院ならではの症例数や規模感を活かした医療の提供
- 専門疾患研究の継続、新規研究・採択プロジェクトの推進
- 国際学会参加や文献検索の利便性、大学組織のバックアップを活用した研究活動
- 研修医・専攻医・若手医師への診療・研究指導
- 症例豊富な環境での自己学習と、診断・教育・研究を通じた知見の社会還元
- 医局の業務支援・維持、人員不足への対応、病院経営への貢献
- 地域枠の履行、地域独自の医局文化や対外活動・啓発活動への参画
- 人員の多さを活かした急な休みの対応、育児と勤務の調整しやすさ

【研究時間の現状】

助教:週5時間以下 63.4%
医員:週5時間以下 69.4%



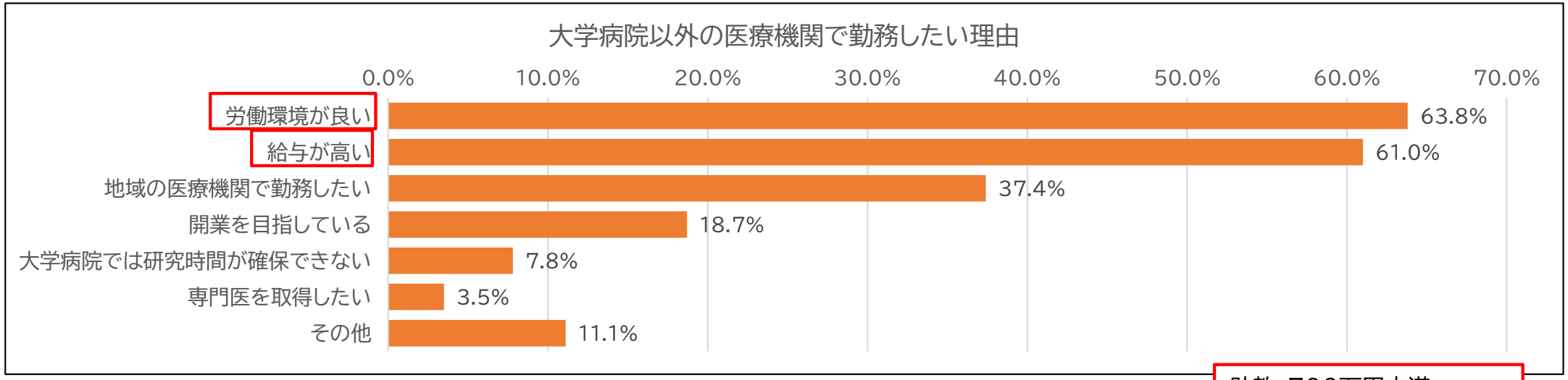
出典:令和7年度 文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業(地域医療に従事する医師の確保・養成のための調査研究)の報告書のデータをAJMCで加工

出典:令和7年度医師の働き方改革に関するアンケート結果(AJMC)、R8.1

4. 大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査・研究報告書 ④

大学病院以外の医療機関で勤務したい理由では、「労働環境が良い」との回答が63.8%、「給与が高い」との回答が61.0%であった。

○ 大学病院以外の医療機関で勤務したい理由

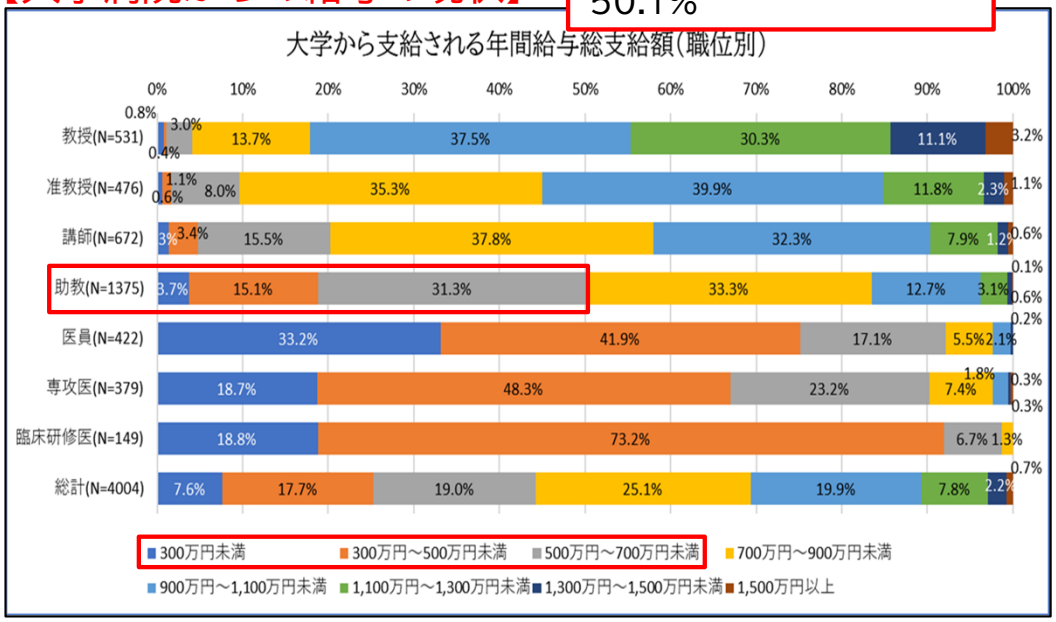


○ その他の回答

- 当直の多さ、土曜・祝日勤務、当直明けの勤務、休日不足、過剰な臨床業務
- 診療・教育・研究にわたる高い能力要件、多忙による身体的・精神的疲弊、人員不足
- 多忙さや労働内容（3次救急等）に見合わない低給料、他病院との待遇格差
- 診療外の業務（学生教育・研究・論文・学会等）が残業と認められない、成果が評価や昇給に反映されない
- 不要なルールや管理業務・雑務の多さ、現場の自由度の低さ
- 臨床に専念したい志向、教授を目指さない等のキャリア観の変化
- ポスト不足・教員枠の狭さ、昇進の見込みの低さ、将来の不透明感
- 他の市中病院や専門施設（ハイボリュームセンター等）でのスキルアップ、自立した医療の提供
- 家族との時間確保、育児・介護との両立困難

【大学病院からの給与の現状】

助教：700万円未満
50.1%



出典：令和7年度 文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業（地域医療に従事する医師の確保・養成のための調査研究）の報告書のデータをAJMCで加工

出典：令和7年度医師の働き方改革に関するアンケート結果（AJMC）、R8.1

5. 病院施設・設備の老朽化の状況

○ 実際に診療、教育、研究に支障が出た事例施設
・ 施設・設備の老朽化は、各大学の対応の限界を超えており、応急措置により診療を維持している状況である。

【配管破損(蒸気漏れ)】

H-02　病棟天井内配管破損

T-02　蒸気ヘッダーの破損

T-10　蒸気管の破損

G-02　蒸気管の破損

T-02　蒸気配管の破損

K-06　ボイラー棟配管蒸気漏れ

出典:国立大学病院長会議資料

【漏水による破損】

A-02　病棟地下SPDセンター汚水漏水

T-02　病棟給湯管からの漏水による天井落下

O-01　病棟天井の雨漏り

K-06　血管造影室天井水漏れ

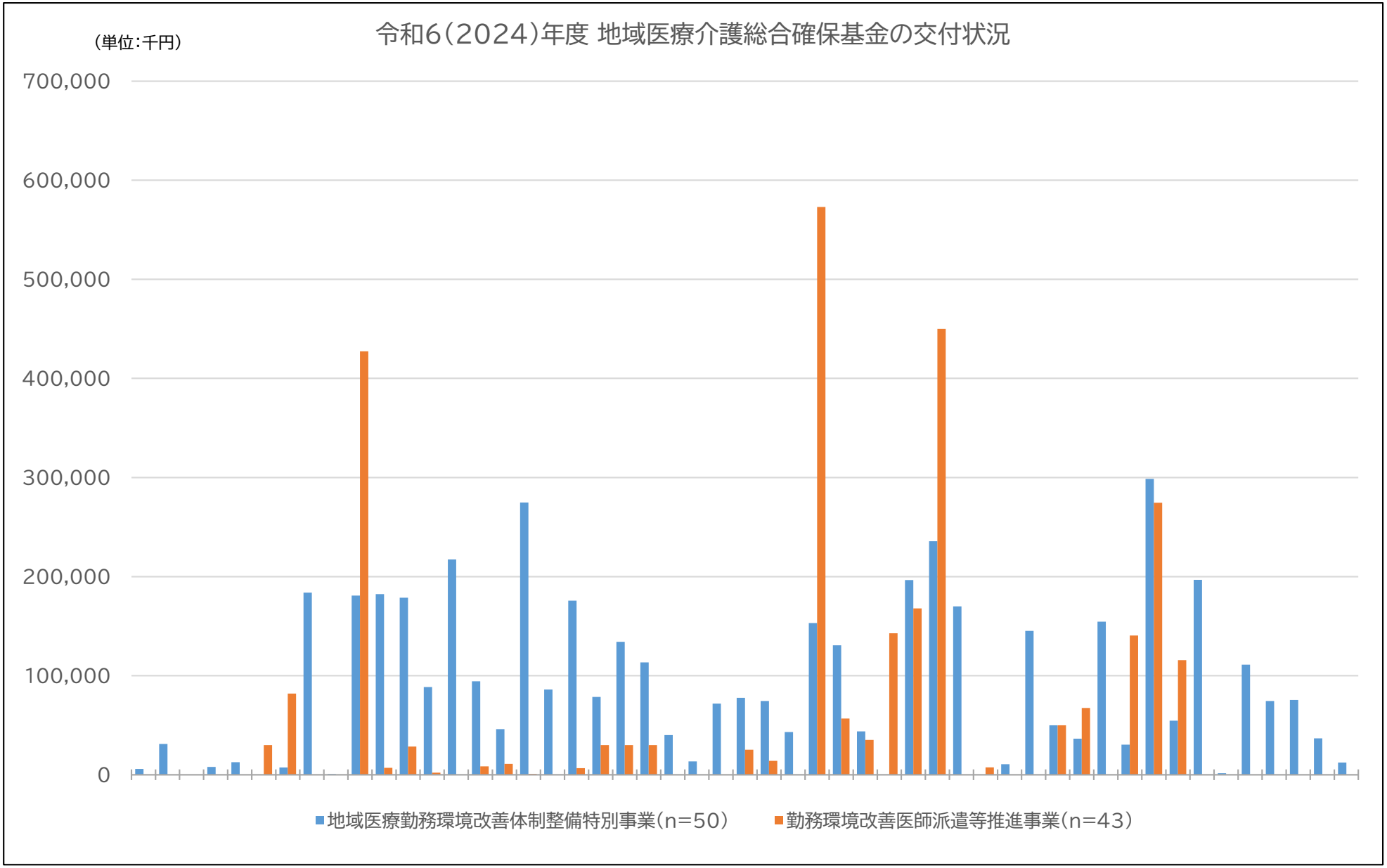
T-06　病棟MEセンター漏水による天井落下

M-01　外来棟の天井雨漏り

出典:国立大学病院長会議資料

（参考）地域医療介護総合確保基金の交付状況

令和6年度の調査結果であるが、都道府県によって交付された補助額にはかなりの差があった。



出典：大学病院の経営に関するアンケート調査結果（AJMC）

6. 国・地方公共団体に対して期待すること【要望】

国に対して期待すること【要望】

○ 老朽化施設・設備に対する緊急的な支援

・単年度でなく、複数年度による支援、かつ柔軟性の高い支援

・再開発整備の前後など、病院施設の現状が各大学病院において様々であるところ、支援の公平性に配慮いただきたい

○ 補正予算頼みでない、恒常的な教育研究の強化に対する支援

○ 高度な診療を行う地域の中核的な医療機関として、また教育研究機関でもある大学病院の特性に配慮した支援

地方公共団体に対して期待すること【要望】

○ 医師派遣や高度医療を担うことで地域医療に貢献してきたが、今後も持続的に地域貢献を行うことができるような支援

○ 概 要

一般社団法人全国医学部長病院長会議（AJMC）

【会　員】82医学部長、附属病院長で構成（国立43大学、公立8大学、私立31大学）

・会　長：石井　優　　（大阪大学 医学部長）
・副会長：相良 博典　（昭和医科大学 病院長）

一般社団法人国立大学病院長会議（NUHC）

【会　員】42国立大学病院長で構成

・会　長：大鳥　精司　（千葉大学医学部附属病院 病院長）
・副会長：南須原 康行（北海道大学病院 病院長）
・副会長：平松　祐司　（筑波大学附属病院 病院長）
・副会長：坂田　泰史　（大阪大学医学部附属病院 病院長）

一般社団法人日本私立医科大学協会

【会　員】31私立医科大学の理事長、理事及び学長、医学部長、附属病院長で構成

・会　長：炭山　嘉伸　（東邦大学 理事長）
・副会長：新井　　一　　（順天堂大学 理事長補佐）
・副会長：明石　勝也　（聖マリアンナ医科大学 理事長）